

8月に入りました。

暦の上では 7日に“立秋“を迎えましたが、陽射しも 気温も 空の景色も 盛夏そのもの！！です。この厳しい暑さは まだまだ続くばかりではなく、ますますパワーアップしているようにも感じます。年々 春夏秋冬の季節感が失われ、それぞれの時期ならではの自然の恵みや風情を 体感できにくいここ数年の異常気象ですが、神様から与えられている“時”や その移り変わりの貴さに意識を持ちひとりひとりが一度限りの生命について想いを馳せながら 互いに愛しみ合い 響き合う感性と心を ゆったりとした園生活の中で じっくりと育んでいける経験を重ねられるよう 努めたいと思います。

明日からのお休みにつきまして、皆さまの 温かなご理解とご協力に 職員一同 感謝申し上げます。今朝、全園児&全職員&ふみふみが、ホールに集まって行った『終業礼拝』では、お休みについて戦争について、少しでも 話をしました。休むことは 私達の 心にとって 身体にとって 頭にとって、力を蓄えてより元気が出るためにも必要であり大切であること、それから「先生達は このお休みで今よりもっと“ステキなせんせい”になるため、一緒に「お勉強（研修）」をしたり 本を読んだり 一生懸命に頑張ろうと思っているので、お休みが終わって19日に会う時には 皆がびっくりする位ステキになっているはずだよ！楽しみにしてね！」と言うと 皆はホント？と瞳を輝かせていました。決して冗談ではなく、与えられた時間を感謝して 普段は なかなかできない学びや経験等を通して、子ども達の保育へ還元するべく、各自で課題を出し合い 有意義で実りある過ごし方を考えています。また、戦争については、8月の聖句【殺してはならない】の意味を投げかけながらの内容でしたが、皆、とても真剣な表情で静かに耳を傾けていました。折鶴を送ったばかりだったので 広島と長崎が身近に感じている子ども達でした。ホワイトボードのカレンダーを見ながら、79年前の出来事を皆で振り返りました。

- ・8月6日に 広島への原爆投下、
- ・その わずか3日後の 8月9日に 長崎への原爆投下、
- ・そして、それから6日後の 8月15日、日本は 敗戦を受け入れ、ようやく終戦。

この10日間の流れを改めて見つめ返し、当時の状況を 経験が無い頭の中で懸命に想い浮かべた時、人間の 心の弱さや傲慢さ、底知れない残酷さを 自分自身の胸に 重く突き付けられた思いがして、子ども達に語ることが とても苦しく、心が痛みました。

同じ人間同士が なぜ 憎しみ合い、いがみ合い、殺し合うのか…

人間には 自分自身も 自分以外も 命を殺す権利を持っていないのに…

ふと、今の時代、戦争だけでなく、世界中～日本中での 殺人事件の多さにも 想いが及びました。戦争の事実を風化させず、この国の歴史を胸に強く刻むこと、世界中 皆 同じ人間同士であること、互いが互いを信じ合い 認め合うこと、そこから 平和の精神は生まれること…

遙か昔、預言者モーセが 神様から直接 授けられた 人として在るべき〔十戒〕という戒めの一つ、【殺してはならない】の神様の御心の意味と人への祈りを 今を生きる私達が 未来を担う子どもに、繰り返し 繰り返し、伝えていかなければならない責任を痛感しました。

戦争は、人間による人災ですが、平和もまた 人間がつくり出すものです。

幼い時にこそ、生きることの意味・命の尊さに真摯に向き合うことの重要性を 思わされていますがこれから小さな心に寄り添いながら、私達自身が 日々 平和の実現に努めていきたいと思います。そして礼拝の終わりに「終戦記念日のお昼の12時に、世界中が平和になりますように…って 皆でそれぞれの場所からお祈りして、イエスさまに皆のお祈りを1つに合わせて神様に届けてもらおう」と約束しました。お家の方々も できましたら どうかぜひ ご一緒に、お祈り頂けましたら感謝です。世界中のすべての人々の心に、神様の愛と平安が注がれますよう 心からお祈りします。（石田 記）

「殺してはならない。（出エジプト記 20：13）〔モーセの十戒〕」